

卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。十代後半というのは、人生で最もエネルギーに満ちて、最も輝きを放つ年頃です。と同時に、輝きが強ければ強いほど、その映し出す影は色濃くなるのが道理で、この三年間は喜びも悲しみも、ひととき濃密な時間をこの伊勢高で大切な仲間とともに過ごしたことと思います。

さて、ヒトはいかにして、地上で栄えるようになったのでしょうか。それ以前には、恐竜のように巨大で強靱な肉体を持つものが他を圧倒していた時代がありました。ヒトは、道具を使い、火を手に入れることで食糧の可能性を広げ、より効率的に栄養を取り入れて脳を発達させました。そうして約30万年前からコミュニケーションの手段として言葉を使い始め、言葉を巧みに操ることができるものが、仲間と力を合わせ、戦略を練って、自分たちよりもはるかに巨大で強靱な肉体をもつ他の生物を凌駕してきました。このようにしてコミュニケーションに長けた種が適者として生存してきたのです。

今、AIなどの発達で目まぐるしい変化を遂げつつある社会において、「他者と協働しつつ自ら考え抜く自立した学び」が求められています。新しい時代の、新しい学びと捉えられていますが、むしろ人類の進化の流れの中では普遍のことであったとも言えます。伊勢高の三年間で、生徒のみなさんには、時代をたくましく生き抜く力を身に付けてもらいたいと思ってきました。そのためには、人と人が関わりあえる時間と空間を大切に、他者とのリアルな関わりを通して前頭葉を刺激し、発達を促すことが必要です。それは、バーチャルな関わりだけでは得ることができません。

加えて、是非忘れないでお願いしたいことがあります。遺跡の発掘から、古代において、重い障がいのある人が、相当長生きしていたことがわかっています。このことからわかるように、社会的弱者を守り、助け合うことができるコミュニティこそが栄えるということです。

卒業する皆さんには、これからの社会の担い手として、他者と協働しつつ、自ら考え、自ら行動し、よりよい社会を築いていってほしいと願っています。

平成三十一年 三月 一日

三重県立伊勢高等学校長
眞崎 俊明